

山伏を先頭に文殊山に登るかたかみ春たんぼの参加者



文殊山登山で知られる鯖江市片上地区のむら起こしイベント「89かたかみ春たんぼ」(福井新聞社後援)が二十九日行われた。大野町の田んぼに特設した会場を拠点に、山伏を先頭に山登り、太鼓ショー、抽選会、護摩たき祈願、山ンバ放談、コンサート・ナイトカーニバルなど新旧をミックスしたイベントが展開された。名物のタニシ料理などのテント店も並んだ。昨年の第一回を上回る約八千人の人数で、小さな山里、片上は終日わき返った。

自然満喫どっぴろぐ千人



これを産地として一本立ちも安定しており、健康食品ブームに乗って消費者へのアピールもあり、消費はまだまだ伸びるとされる。しに、当然幾つかの課題をクリアしなければならぬ。栽培も増えていく傾向にある。

鯖江市片上・春たんぼ'89にぎわう 家族連れら登山楽しむ

午前十時からの開会式に続いて、プラスチックバンドやボタンガール、トラクター十一台、三国・滝谷寺の山伏七人を先

頭に大正寺町の登山口まで登山者がパレード。家族連れや若いカップルなど約三千人が参加し、登山道は長蛇の列。登山口は順番待ちの人であふれた。好天に恵まれ健康な森林浴ができるうえ、頭がよくなる文殊菩薩にあやかるう、抽選であわよくば賞品も...ということか主催者の予想を上回る登山者となった。



雪起こし作業でいっぱいロープを引っ張る参加者たち

街の子ら山仕事体験

与作ツアー21人、山菜採りも

池田町で二十九日、山仕事に対する理解、関心を深めてと炭焼きなどを体験し、林業「もろお」と与作体験ツアー

設ステージでは、現代の山ンバ、清川虹子さんと内海好江さんによる放談があった。夕暮れが迫るころ、大阪の美人サンパタンサー六人による情熱的サンバが繰り広げられ

ら起こしをしようとは始まった。今年には地区内四百戸から一戸平均三千円を集めて資金とした。通行止めあす解除 県道勝原線など 大野土木事務所 冬の間雪崩、落石のため通行禁止にしていた県道上小池勝原線の鳩ヶ湯―上小池間と県道大谷秋生大野線の中島―箱ヶ瀬間の通行止めを一日から解除す



ぼくわたし

白野君は三位、別田君は二位、石塚君も三位に輝いた。白野君は今年が初出場。

敗れた相手に準決勝で負けと無欲で臨んだ。それが次「あの京都の子、強かったな」と、別田君と顔をくくりした。それでも毎夜九時ごろまで練習したかいが、お父さんから「やっちゃた」とほめられ、うれしうた。